

理 由 書

(名古屋都市計画道路 8・6・36 号広井町線地下道 2 号線)

1. 変更の概要

名古屋駅からささしまライブ 24 地区や名駅南地区へのアクセス改善を図るため、8・6・36 号広井町線地下道 2 号線を新たに追加するものです。

(名古屋市決定)

路線名	変更内容	幅員	延長	備考
8・6・36 広井町線 地下道 2 号線	路線の追加	8.5m	約 300m	歩行者専用道

2. 都市計画変更の理由とその内容

(1) 都市計画変更の理由

ささしまライブ 24 地区は、名古屋の玄関口にふさわしい国際歓迎・交流拠点として国内外の人々が集い、中川運河で港とつながり、都心のにぎわいと水辺の憩いが交わる緑豊かなまちづくりを進めています。

一方、名駅南地区は、大規模な低未利用地の土地利用が進むことにより、様々なひと・まち・文化がクロスし、クリエイティブな取り組みが盛んとなるまちづくりを目指しています。

しかしながら、現状では、広井町線の歩道はピーク時に歩行者や自転車混雑し、下広井町交差点では信号待ちによる滞留が発生しています。また、ささしまライブ 24 地区及び名駅南地区は、広井町線などの広幅員道路によってまちが分断されており、横断箇所が限られているため、歩行者アクセスに制約があります。

今後、リニア中央新幹線の開業や民間開発の進展に伴い、歩行者の交通量がさらに増加することが見込まれるため、広井町線における歩行環境の改善が重要な課題となっています。

今回の都市計画変更では、名古屋鉄道株式会社ほか 4 社が共同で検討を進めている「名古屋駅地区再開発計画」において建設が予定されている建物と新たに設置する地下公共空間を地下で接続させる計画となっており、安心・安全・快適な歩行者交通ネットワークを一体となり形成することで、名古屋駅からシームレス・バリアフリーでつながり、名古屋駅地区からささしまライブ 24 地区及び名駅南地区へのアクセス改善を図ります。

また、笹島交差点付近からささしまライブ 24 地区及び名駅南地区を結ぶ地下公共空間の東西に出入口を設けることで、まちの分断を解消し、歩行者

の安全性、回遊性が向上し、周辺の民間再開発等も期待されます。

更に、名古屋駅周辺地区では、大規模地震時における帰宅困難者の受け入れ施設が不足している状況にあるため、地下公共空間を退避施設として活用することで、防災機能の強化も図ります。

（２）上位計画との整合

名古屋駅は、現在 9 つの鉄道路線が乗り入れる交通結節点であり、令和元年度時点で 1 日あたり約 130 万人に利用されています。今後は、リニア中央新幹線の東京－名古屋間の開業が予定されており、さらに東京－大阪間が開業すれば、三大都市圏が約 1 時間で結ばれる「日本中央回廊」と呼ばれる約 7,000 万人の交流圏が形成されることになります。

こうした将来を見据え、「名古屋市都市計画マスタープラン」では、名古屋駅周辺における交通機能の強化を重要な施策として位置づけており、各方面から名古屋駅へのアクセス性向上に向けて、交通施設の整備を進めることが掲げられています。また、リニア開業を見据え、鉄道事業者を始め多様な主体が連携してまちづくりを進めていくうえで、共有すべき目標像やその実現に向けた取組みを明らかにするため、「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定しました。この構想では、駅とまちをつなぐ南北ネットワークの強化を柱の一つとし、ささしまライブ 24 地区及び名駅南地区への通路整備（名古屋駅周辺地下公共空間整備）を掲げています。

３．都市計画変更の内容

○区域

笹島交差点付近からささしまライブ 24 地区付近へ延長約 300m の地下公共空間を設け、その端部及び中間部に出入口を設けます。

○幅員

地下公共空間の代表幅員は 8.5m とします。

なお、通路及び各出入口の有効幅員は「大規模開発地区関連交通計画マニュアル」に基づくサービス水準 A を確保していることを確認しております。

○施設配置

<昇降施設>

高齢者や障害者、子育て世代など、すべての人にとって、安心して利用できるバリアフリーに配慮した施設とするため、出入口にエスカレーター・エレベーターを設置します。

<動く歩道>

高齢者や障害者、子育て世代など、すべての人にとって、心理的距離（歩行距離）の短縮による移動の快適性向上に資する施設とするため、本体通路延長約 300mのうち、約 200mの区間において、幅員約 3.5m の動く歩道を設置します。

<公共トイレ>

すべての人の利便性向上、退避施設として活用する地下公共空間の防災性向上のため、公共トイレを設置します。

【本体通路 断面図】

